

長谷洞愛忠七拾余獨吟之一卷



60

65

70

75





元日

モト

久之志の川原にさきまふ

元日ノ夜ハ三物とくさう三すんし夜に

百韻ニつけれは

あまのふもよまふうのひをたす

照つる年白のぬき

釣 兼もく風もさき梅咲く

あじい梅工さるぬらんまう

日なりさう流雲名れ山く

あまのふもよまふうのひをたす

あまのふもよまふうのひをたす

...の...
...
...

...の...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

二とりのき道るわの坂の美

三多る及ふたに遠れ救争こ

常り此場小月千ううこ

まこしとれ毒ちちの地をひ

ちりち方面の神の志のり

引すねと田之志の海を

方海の田を

くくくくくくくくくくく

物れがとちを海さの海を

こり一白ちん

こよみ舟しちのちん

こゝろお母さういふことね

二 弘くねらうく此海さふ

母に弘くけしやう

月あしたらうのすうり

かすうらり

遠くハ世果もつたかき

房れま^ホりるあま田の家

付子

ふと野中霜由社々村居

たまさし

所れ梅まはのさし

はくと神のさうたふて

真由うらさうり大のけ

あさき治まをり

細々とゆあうのさし

お少き泡をきりし

細くとゆあう^てのえと^は新

あふれんと^はた^もて^は平^も

堅り^とた^とて^はまの^もた^は新

流る^はな^うま^のま^まし^よ

お^のま^の入^をき^く者^は新

右ノ字不入

お^のま^の入^をき^く者^は新

長^ニ師^ハあ^りし^は濃^ハの^もた^は新^ハ白

注ノ字あり

お^のま^の入^をき^く者^は新

月^はま^りと^はお^のま^の入^をき^く者^は新

月まてと小春の満ちるる
まじりてゆく

方程れきき程の巻の終り

巻に終るる巻の終り

玉うつり程の海の時久し

あまのうらみは白く
あまのうらみは白く

誰かてまじりて
誰かてまじりて

あまのうらみは白く

あまのうらみは白く

後これ棹の波はく
後これ棹の波はく

あまのうらみは白く

あまのうらみは白く

あまのうらみは白く

けいさききつぬれはるおき

けいさききつぬれはるおき

目しるるはるのまふ

うつくあきとあかりあきんたの

たのまをあらひたぬの

こくまやあきしとあきんたの

あきんたのあきしとあきんたの

あきんたのあきしとあきんたの

あきんたのあきしとあきんたの

あきんたのあきしとあきんたの

布はすす賤せんのの心こころのの心こころををて

嘆なげ息いきままささくく入いりりけけるる卯うのの花はな

ののめめややああららままるるほほろろくく次つぎ

書二二〇一

人ひとゆゆららるるののししららるるののそそ

ききららひひののとと書かききすす又またのの内うち

せらむに、行とらむ

所ところろろろろ今いまささびびれれたたららん

表さし又あらなるちこなる

白しろ川がわのの雲くも丹に志しききららるる心こころををて

若くは、心と、心といふ

心こころかからら弱よわままるる及およびびたたららるる心こころ

書二二〇一
心こころかからら弱よわままるる及およびびたたららるる心こころ

書何ん民きいりあぬまし家

うりう又たたに教の港を

記の毎二言もし物もいふ

三少 高き風の 記の毎二言もし物もいふ

高きしし神のあつまる

鞠お入、おまのし

あつれ目おし海と注る

以 けり けり けり けり けり

あつれをてん出りしあつれ

あつれをてん出りしあつれ

あつれをてん出りしあつれ

と申す度也と云ふらん

相^浦がれ他と云ふはひし程

をあげりしを推まればあはれ

相浦に推又よあはれ

をうへあまるといふはあはれ

極海を固くはらふと云ふは

流まじのまと云ふはあはれ

品くれ目のあはれと云ふは

あはれと云ふはあはれの秋

あはれと云ふはあはれの秋

芳くしては 花のついでに

月舟の影を流すに似て

たのしみ

野を渡るこゝろは 舟のまゝ

けしきもこれにまじりて

出立のころ

古川のほとり 舟のまゝ

舟のまゝ

舟のまゝ 舟のまゝ

舟のまゝ

舟のまゝ 舟のまゝ

舟のまゝ 舟のまゝ

舟のまゝ 舟のまゝ

山名 詩心

感んば海海心ゆく錦のみ

山谷の詩心あり

ねえれあまの神かみみたまをいぬ

見二形二の好く目み

見かゝるやまのこゝろ

まぬくはらきぬのけいも

もや田らう一舞れをの命

マロリ一の地

老る歳りし舞る山のまもる

朽てるるやうなれは果

かゝるれうらうらなまも

うらうら文小あぬ又五

有るたきうらうら

言くま客りとうらなま

求らうの可

破つるうらなれうら

被つてゐる市井の

あつた

あつた

あつた

僻点拾遺

は内長

高首



伊地知文庫

文庫20

122

60

65

70

75

80